

# 食品分野へ本格進出

## 生鮮・加工など 輸送から販売まで

### 中田商事

【三重】中田商事（中田純一社長、三重県伊賀市）は、食品分野へ本格的に進出する。本社倉庫に冷凍・冷蔵庫を設置し、新たに4ト冷凍トラックも導入。小規模生産者の生鮮食品や加工食品などを輸送から販売まで手掛ける。中田社長は「食品のマーケティングや商品開発は女性の感性が大事」と、女性スタッフ活用のもとでも生かす。（星野誠）

### 女性の感性生かす

1月から、大王運輸（天白拓治社長、明和町）が行う地産地消ネットワーク「たべねっとみえ」で、伊賀・名張地区を担当。地元の小規模生産者から農産物や海産物を集荷し、販売までをワンストップで手掛ける取り組みで、既に2ト冷凍車と軽ワゴン車を導入していた。

中田氏は「生産者とコミュニティケーションを図りながら地域密着で進めており、物量は順調に推移している。たべねっとみえは手数料収入で、まだ採算が取れる状態ではないが、先行投

5月末、本社倉庫内スペースに、温度設定マイナス

20度の冷凍庫と、マイナス5度の冷蔵庫を設置。6月にはパワーゲート付き4ト冷凍車を購入し、1日から本稼働させた。これまで主力だった住宅関連、各種機械、産業廃棄物に加え、温度管理を含めた食品物流に

初めてチャレンジする。「地元の伊賀・名張地区では、食品を扱う事業者が比較的少なく、冷凍・冷蔵の倉庫施設も限られているが、潜在的な需要はあると思う。今後、食品関係の物量が増えてくれば、自社冷蔵倉庫などの設備投資も前向きに検討する。輸送と保管だけでなく、付加価値の高い仕事をしたい」

たべねっとみえは、小規模生産者の生産計画、商品開発、販売戦略にも関与する。バイヤーであると同時にアドバイザーの役割も担うが、女性スタッフの活用がポイントと考えている。中田氏は「商品の味や価格設定、販売方法については、女性の感性に従えば間違いない。既に、パッケージデザイン立案に関わっている女性社員もいる。女性が活躍する場をつくることは、会社全体の元気につながる」と力を込める。

本社倉庫の冷凍庫を紹介する中田社長

